

リスクコミュニケーション

食品安全委員会は、食品健康影響評価の結果や食品安全に関する基礎的な知識について、消費者、食品関係事業者、研究者、報道関係者、行政担当者等の様々な立場の方とリスクコミュニケーションを行っています。

● 公開シンポジウム「食品健康影響評価における生体サンプルの活用に向けて ～現状と今後の課題～」

2019年1月17日、公開シンポジウム「食品健康影響評価における生体サンプルの活用に向けて～現状と今後の課題～」を開催しました。

シンポジウムでは、企業や行政関係の方々に参加いただきました。行政担当者や研究者から、生体サンプルを用いた化学物質ばく露量調査の現状や、生体サンプルの活用に向けた最新の研究状況についての講演を行った後、食品健康影響評価における生体サンプルの活用の課題や方向性についてパネルディスカッションを行いました。



 **公開シンポジウム** <http://www.fsc.go.jp/fsciiis/meetingMaterial/show/kai20190117ik1>

● 講座「精講」

2018年11月、「食品健康影響評価のためのリスクプロファイル～鶏肉等におけるカンピロバクター・ジェジュニ/コリ」(同年5月作成、本誌7ページ)をテーマとした「精講」を2回開催しました。この講座は、食品健康影響評価やリスクプロファイルの理解と活用の促進のために、食品関係事業者や研究者を対象として開催しているものです。

参加者からは「カンピロバクター属菌による食中毒を防止するために、この細菌のことをもっと知ってもらう必要がある」という内容のコメントや、精講の継続を希望するご意見をいただきました。

● 講座「みんなのための食品安全勉強会」

2018年7～10月、「知って防ごう食中毒」「食べものと微生物」をテーマとした「みんなのための食品安全勉強会」を3回開催しました。この講座は、食品安全に関する基礎的な科学的知識を提供するために、一般消費者を対象として開催しているものです。

参加者からは「食品事業者だけでなく、消費者も食品を正しく扱わないと食中毒が発生してしまうことがわかった」という内容のコメントをいただきました。

● 全国食品安全連絡会議

食品安全に関する基礎知識の普及と理解の推進を図り、地方公共団体が自ら行うリスクコミュニケーションを促進するため、地方公共団体との連携強化に努めています。その一環として毎年、全国の保健所や都道府県の食品安全担当者が一堂に会する「全国食品安全連絡会議」を開催しています。2018年4月の会議では、食品安全委員会から、リスクコミュニケーションの今後の取組方針について説明し、地方公共団体から、各自治体が行ったリスクコミュニケーションの事例を紹介いただきました。

参加者からは、「リスクコミュニケーションの手段としての講演会やシンポジウムなどは、情報共有の段階にあたるの気づきがあった」等のコメントをいただきました。



● 地方公共団体との共催による意見交換会等

栄養教諭や家庭科教諭等の学校教育関係者を重点対象とした意見交換会を、地方公共団体と共同開催しています。意見交換会では、食品安全委員会と地方公共団体がそれぞれ食品安全に関して話題提供し、それをもとに参加者がグループに分かれて意見を交換して理解を深め、グループワークを行います。2018年度は、食中毒予防などをテーマに7カ所で開催し、例えば、食中毒防止を呼びかけるクリアファイル等が作成されました。このクリアファイルは、共同開催した地方公共団体のイベント等で配布されました。

